

平成28年度研究推進計画

海田町立海田南小学校

校長名 重森 栄理

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する児童の育成
～資質・能力を育む「課題発見・解決学習」の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

本校は、海田町「21世紀型能力育成総合対策事業」において、「学びの変革」パイロット校の海田東小学校を中心に、海田中学校区の3校で児童の「主体的な学びのある授業づくり」を目指してきた。昨年度は、本校の研究テーマを「主体的に学ぼうとする児童の育成」とし、国語科の説明的な文章を中心とした課題発見・解決型の単元開発・授業改善に取り組むことで、主体的に学びに向かう児童の育成とともに、本校の課題であった文章を正確に読み取る力の向上を図ってきた。その結果、1月に行ったCRT（標準学力調査）では、国語科においては全学年標準スコアを上回っており、一定の成果が見られた。一方で、「基礎・基本」定着状況調査児童質問紙「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」という質問において、肯定的な解答が県平均80.0%に対し本校72.5%と、-7.5ポイントであった。これは、単元における課題設定・解決の過程が児童にとって必然性のあるものになっていないことに原因があると考えられる。児童が本気になって課題を見付け、解決したいと思えるような単元を開発することが必要である。さらに、全国学力・学習状況調査児童質問紙における「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」という質問については肯定的な解答が県平均69.5%に対して本校57.8%と-11.7ポイントであり、資料や情報を活用しようという意欲や能力にも課題がみられる。

これらの課題をふまえ、「課題発見・解決学習」型の単元開発に引き続き取り組み、「知識・情報活用能力」「思考力・判断力・表現力」「主体性」「自己理解」といった資質・能力を育てていくことを目指していく。昨年度は国語科のみの研究であったが、これらの資質・能力をより高めるために、今年度は国語科だけではなく、総合的な学習でも研究を進めることで、真に主体的・協働的に学び、進んで自分の考えを表現できるような児童の育成を目指していく。

3 研究仮説

児童にとって必然性のある課題をもたせた単元を開発し、思考の仕方を身に付けさせるとともに学習者と指導者が共有する評価基準を作成・活用すれば、主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する児童が育成されるであろう。

4 研究内容

(1) 授業づくり

○児童が主体的・協働的に学ぼうとし、資質・能力を育む「課題発見・解決学習」型の単元開発

ア 思考力・表現力，知識・情報活用能力の育成

- ・思考ツール及び黒板表示，教室掲示の活用
- ・考える視点の明確化

「比較（比べる）」「分類（分ける）」「構造化（整理する）」「評価（まとめる）」
「多面的（見方を変える）」「関連付け（つなげる）」

イ 主体性

- ・学習者にとって必然性があり，やる気にさせる課題をもたせた単元の設定
- ・学習者の学びの上での願いをかなえる「ドリームプラン」の作成

ウ 自己理解

- ・学習者と指導者が共有する評価基準の作成・活用による身に付けた力のメタ認知化

(2) 学習環境づくり

ア 学習の基盤

- ・認め合い，支え合う学級づくり
- ・ユニバーサルデザインの授業づくり

イ 日常的な取組

- ・読書活動の充実
 - ・推薦図書リストの活用，読書の奨励
 - ・並行読書の推進
 - ・学級文庫の充実
- ・学力調査の分析をもとにしたドリルタイムの計画的な実施

5 研究方法

(1) 理論研修

(2) 研究授業

○全教職員が年1回以上の研究授業を実施

授業実践を参観し、協議の柱に沿って授業分析を行うことで、研究主題に迫る授業づくりをする。

- 協議の柱**
- ①児童が主体的に学ぼうとするための手立ては有効であったか。
 - ②「学び合い」における協働的な思考の場はどのように工夫されていたか。

また、授業づくりを通して、指導方法の工夫・改善を行う。授業研究のもち方については、次の通りとする。

ア 全体研究授業

- ・主として学年部単位で教材研究、学習指導案の検討及び模擬授業等を行う。
- ・原則として1ヶ月前に全体で事前研究を行い、授業研究の視点を明らかにする。
- ・授業記録は学年部で、協議会の司会、記録、会場準備は教務部で行う。
- ・記録者は協議会終了後、授業記録及び協議会記録を整理する。
- ・授業者は単元終了後、成果と課題を整理する。

イ ブロック研究授業

- ・全体授業研究の授業者以外の教職員が年1回行う。
- ・初任者研修の師範授業等と兼ねることができる。
- ・当該ブロックに所属している教職員及び管理職は原則全員参観する。
- ・原則として2週間前に参観者で事前研究を行い、授業研究の視点を明らかにする。
- ・授業後、研究授業参観者で協議会をもち、成果と課題を明らかにする。

6 検証計画

(1) 研究授業の検証

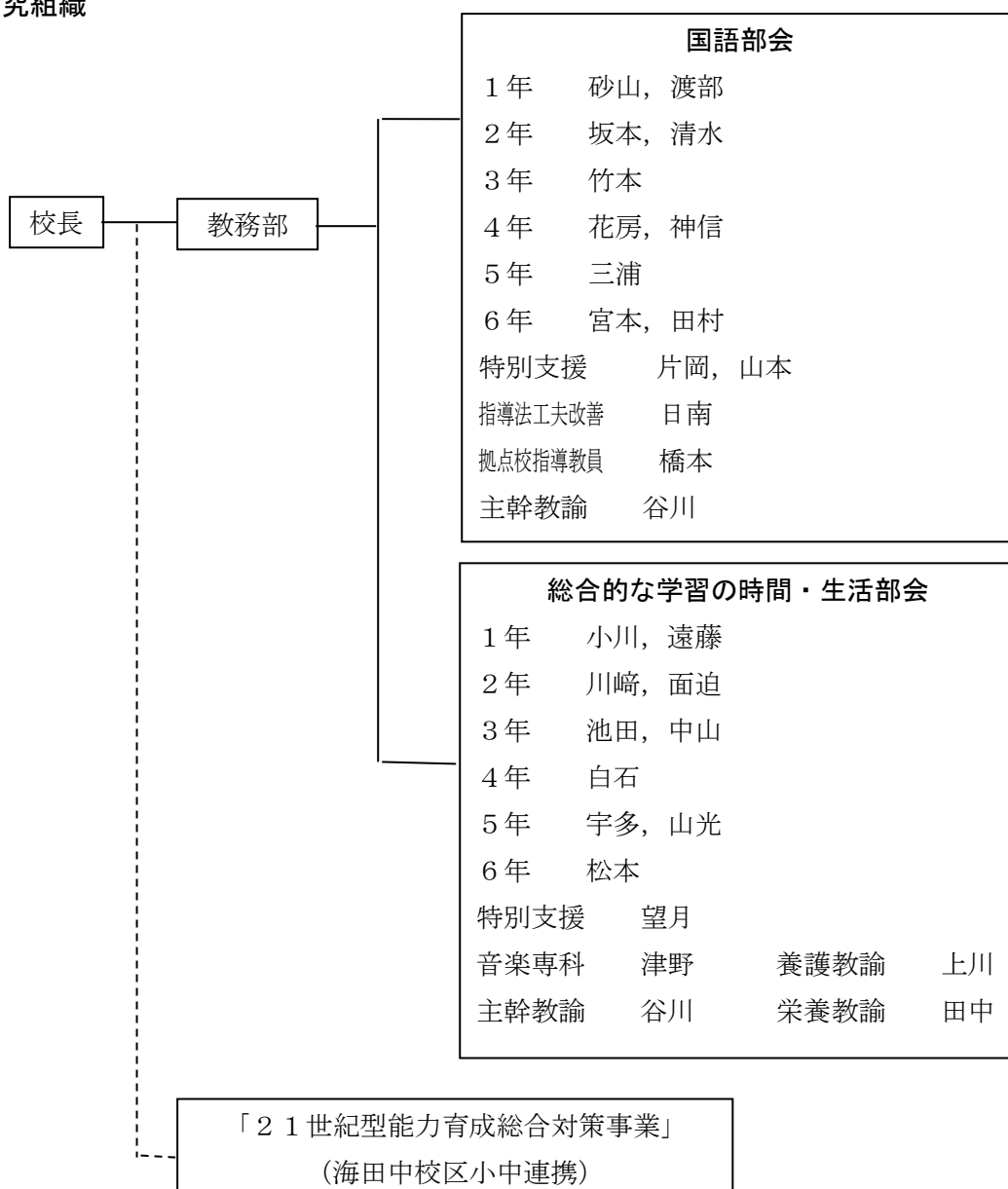
- ・授業の協議・検証
- ・成果物の検証

(2) 各種学力調査の検証

(3) 児童の意識調査の実施と分析

(4) 教職員の意識調査の実施と分析

7 研究組織



8 研修計画

月	日	曜	研究内容	会場	講師
4	18	月	校内研修 (今年度の取組について)		
	27	水	意識調査, 実態調査の項目の検討		
5	6	金	全国学力・学習状況調査 (4.19) の分析		
	13	金	全体授業研究① (たんぼぼ1・2・3組)		広島特別支援学校 沖本先生
	18	水	海中校区21授業研参加 (パイロット教員師範授業)	東小	関西大学黒上先生

6	2 13 28	木 月 火	全体授業研究②（6年3組 国語） 「基礎・基本」定着状況調査（6.7）の分析 海中校区 21 授業研参加（来校）	東小	県教委 広島大学難波先生
7	初旬 6 27 29 29	水 水 金 金	第1回意識調査実施 海田町授業力向上研修（道徳） 海田町授業力向上研修（特別支援） 全国学力・基礎基本の課題分析 教材研究、研究授業の実践・交流（全体研・ブロック研）	海小	広島大学七木田先生
8	8 23	月 火	海田町授業力向上研修 海田町授業力向上研修（生徒指導） 10.19 学習指導案検討 今年度の研究中間まとめ・2学期からの計画見直し	海中	織田さん
9	7 14 28	木 水 水	全体授業研究③（1年4組 国語）（特別支援） 全体授業研究④（3年 組 総合） 海田町授業力向上研修（ 年 組 体育 ）		県教委 愛甲指導主事 関西福祉大学新川先生
10	5 19	水 水	校内授業研究⑤（2年 組 国語） 海田中学校区公開研究会（ 年 組, 年 組 ）	東小	県教委
11	25	金	グローバル公開研兼授業力向上研修 追跡調査の実施（4・5・6年）	西中・西小	
12	1 初旬	木	海中校区 21 授業研参加 第2回意識調査実施 教材研究、研究授業の実践・交流（全体研・ブロック研）	海中	広島大学難波先生
1	18 25 31	水 水 火	全体授業研究⑥（4年 組 国語） 西中校区公開研究会 海中校区 21 授業研⑦（5年 組 総合）	西中	県教委 関西福祉大学新川先生
2	9 15	木 水	海中校区 21 授業研⑧（6年 組 国語） 海田町授業力向上研修（N I E） 追跡調査の実施（4・5年）	西小	広島大学難波先生
3	初旬 6	月	第3回意識調査実施 本年度研究のまとめと次年度の方向付け		

※太字は実践指定校に関わる県教委訪問予定日程